震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(① 市・郡・町) 大阪市	
	(②区・町・字)	
	(② 丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏　名 団体名	上田　孝（ウエダ　タカシ）	
活動の内容 名　称 期　間 場　所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど	芸術・文化に関する活動　活動の内容 名称（イヴェント・タイトル） 「春一番！イキイキ西神戸・ハッピーステージ」 開 催 日　９７年（平成９年）３月１６日（日） 時　　間　１１時～１１時５０分　／　１３時～１３時５０分　２回 会　　場　長田区大正筋「パラール」前更地 出　　演　「柳沢慎一と浅草ＨＵＢ（ハブ）オールスターズ」 柳沢慎一　Ｄｒ　Ｖｏｃ、光井章夫　Ｔｐ　Ｖｏｃ、五十嵐明要　Ａｓ、 花岡詠二　Ｃｌ、小林　洋　Ｐ、根市タカオ　Ｂ　司会 そ の 他　雨天決行　　入場無料 企画／制作　上田　孝（個人） 協　　賛　（㈱）ダイエー　ＨＵＢ三宮店　ＨＵＢ新神戸店、大正筋商店街振興組合、パラール名店会 後　　援　（財）神戸市民文化振興財団、神戸新聞社、サンテレビジョン、ＡＭ神戸ラジオ関西、デイリースポーツ社 取材協力　ＮＨＫ神戸支局、朝日新聞社大阪本社 記　（上田） 私事、大正筋にて家内の母を亡くし、家内の実家も義弟宅も全壊、全焼の被害を受けました。小生、生来のジャズ好きにてわが国トップ・ミュージシャンとも知己多く、何とかして被災地のド真ん中で復興のジャズをと考えていました。 幸い、永らくボランティア活動を続けていらっしゃる柳沢さんのご理解を頂き、上記各法人を駆けずり回り、ようやく後援を取付け、晴れて具体化しました。 当日は幸い好天に恵まれ、超満員の盛況でした。 いちばん嬉しかったこと…、 後日戴いた柳沢さんからのお便りにこう書いてありました。 当日、演奏を終えて新長田駅のホームで電車を待っていたら、	

長田のおばさんや、おじさんから「よかった！おおきに！又やって！」と口々に感謝の言葉を浴びせられました。そっくり、そのままこの言葉を上田さんにお返ししたい気持ちです。やってよかった！

ジャズとは縁のない母でしたが、きっと喜んでくれたことでしょう。

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(①市・郡・町) 吹田	
	(②区・町・字)	
	(③丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏　名 団体名	田中ゆさこ(個人) 当時の主催者は神戸のお医者様とジョン・ヴァイト氏.	
活動の内容 (名　称 期　間 場　所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど)	震災後1年～2年後でしたが仮設住宅に住われている方々に色をぬってもらう催に参加しました。尼崎と芦屋周辺にありました仮設住宅で住民の方々の心のケアと親睦を計るのが目的で、住宅の空地に机を並べて私達は絵の具等を用意して、住民の方々の参加を待っておりましたが、誰も出て来られず、係の方の熱心な呼び掛けで1人2人と出て来られたが、皆さん黙ってジッーと座ったままでしたが1人2人と色をぬり始めて、約20分位で隣りに座った人(住人)達と話し始め最初は「ここ何色がいいー」とか「私この色好きやねんー」とかの話で始まり、「震災前どこにいたの～」とか自分達の話で何んか親しくなられた様子でした。2時間程度でしたが、最後は笑い顔を見せて下さいました。	

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(① 市・郡・町) 大阪府富田林市	
	(②区・町・字)	
	(② 丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏　名 団体名	安全な食べものネットワーク　オルター	
活動の内容 名　称 期　間 場　所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど	ドキュメント、無農薬食材でのリレー炊き出し ～温かくて栄養を考えた普通の食事を！～ オルター　代表　西川栄郎 １月１７日早朝、ただならぬ震動を体感し、続いて聞こえた妻の「地震！」という声で目が覚めた。すぐにテレビのスイッチを入れる、各地の震度が出る。大阪は五、神戸は六。しかし神戸の震度は誤報と打ち消された。コンビニの風景が映る。ビンが倒れている。この風景が繰り返される。大したことはないと思い、いつものように出勤した。被害の大きさを理解したのは夜、帰宅して見たテレビだった。 知り合いが神戸に多くさんいる。安否が心配だがなかなか電話がつながらない。結局、周辺の情報を掻き集めて皆無事であることを知った。 １月２０日になってたまごの生産者の田中成久さんや会員の江口龍臣さんから何か支援しょうとの呼び掛け。オルターとしては事業立ち上げ直後で猫の手も借りたいほどの状況。しかしそんなことも言ってはおられない。とりあえず兵庫区のちびくろ保育園の田中園長に連絡、何かできることがあるかを打診。「近くの明親小学校で被災民１２００人が温いもの全く何も食べていないので、豚汁の炊き出しをしてもらえないか」。 これを聞いて、早速臨戦体制に入った。オルターの関係者へ協力を要請。１月２１日正午、オルター事務所に３０数名が集まり、１２００人の豚汁の準備。誰も作ったことのない量。手探りで始めた。届いた野菜を洗う、切ってビニール袋へ、大鍋で玉子を茹でる。５００㍑タンク、水、コンロ数台、炭、プロパンボンベ、大型炊飯器、食器、パン、ケーキや、各々がこんなものもいるのではないかと考えた下着、紙おむつ、カイロ、カセットコンロ、などの救援物資、カンパも集まり始め、みるみるトラック三台の荷物になった。富田林警察で緊急用通行証も交付を受けた。 １月２２日午前３時、トラック隊９名出発。道路事情は消防士でもある田中さんに詳しく集めてもらった。途中の道は至るところで波打ち、段差ができている。今にも道路に倒れかけている家や電柱。裏道を越えて、それでも	

予想より、はるかに早く六時にはちびくろ保育園へ到着。保育園に荷物を下ろし、荷物を明親小学校へピストン輸送しながら、炊き出しの準備を開始。熊本、東京から保育園に駆けつけた若者２０～３０人がてきぱきと動いてくれて、夕食１２００人分の豚汁がついに完成。保育園へは十分な応援が駆けつけ、これ以上の応援は不要と判断し、この形の応援を他へ向けることに。

１月２３日、西宮の知人から聞いて、西宮付近も炊き出しが必要と知る。この知人は独立したばかり、買ったたばかりのトラックも地震でつぶれた。にもかかわらずボランティアをしておられる。その姿勢に感動した。

翌２４日、西宮市役所食料担当畦布係長や西宮 YMCA と相談。幾つかの小学校を見て、香櫨園小学校で炊き出し応援をすることを決めた。周辺は全壊の家、死者が多く、小学校を中心に、中学校、大谷美術館などに１７００人が避難。周辺の民家を含めて２０００人が炊き出しの対象。被災民の人々はおにぎりばかり、それも満足に届いていない有様。温いもの、栄養も考えた食事が必要だ。後日分かったことだが、通常の三倍の防腐剤を使ったおにぎり屋もあったそうだ。

教頭先生に炊き出し用に給食の大鍋を借りたいと申し入れた。予想もしない「だめ」という回答。ゆっくり事情を聞いた。結局貸したら被災民の滞在が長引くと授業再開の目途が立たなくなると不安がっていることがわかった。今、そんな事を言っているときではないでしょう、とねばり強く説得、ついに借りることができた。後日談では炊き出しに給食用の鍋を提供したのはこの香櫨園小学校だけだったそうだ。

被災民の食事担当の安田さんらと打ち合わせをしているときにこんな事も聞いた。鹿児島からさつまいもを持ってきた団体がテレビ局を連れてきて、お涙頂戴のやらせ取材をして帰ったとカンカンに怒っておられた。私たちは月光仮面のように名前を伏せ、炊き出しを始めることにした。そのため被災民の皆さんはずっと後まで西宮市による炊き出しだと思っておられたそうだ。

その夜は緊急全集を招集、障害者団体「かすみ荘」とも協力して再び緊急応援体制をとる。２５日はまた約２０名が事務所に集合、炊き出しの準備を開始。今度は慣れた手つき、段取りで作業が進む。メニューは栄養士である石田さんの指導。オルターの生産者から食材がドンドン届く、無農薬材料での炊き出しなのだ。関西燃料さんは格安でプロパンを提供。救援物資も続々届く、被災民の希望するものが集められていく。小学校での作業はオルターのメンバーを責任者に、YMCA のボランティア約十人が担当した。

１月２６日、朝食は味噌汁２０００食、夜は肉団子汁２０００食、おにぎりしか食べていなかった被災者から本当に感謝された。特にお年寄りから。食器は持ち帰り、洗ってリサイクル。ごみも持ち帰り。希望されている物資は翌日届ける。こうして連日の炊き出しがスタートしたのだ。カレー、けんちん汁、メニューは日替り、炭で餅も焼いた。

２月１日になって、被災者どうしで炊き出しのための自治組織を結成してもらった。炊き出しも長期化していた。自衛隊の協力で水も使えるようになり、食材、燃料の提供で現地での調理が可能となった。炊き出しに対して西宮市からは義援金が支出されず、私たちのカンパで費用はまかなわれた。２月５日には西宮 YMCA よりボランティアがろくに食事をしていない、ボランティアの食事の応援を頼むとの連絡が入る。小学校の現地での作業に堺市役所の市職労の皆さんが常駐してくれるようになった。ミニコミ誌のシティージャーナルが２月１５日号でリレー炊き出しを呼び掛けてくれた。農業団体などからあふれるほどの食材が届くようになった。被災者の希望メニューであるうどん、シチュー、ぜんざい、などがドンドン取り入れられる。

こうして食材の提供者、トラックの輸送隊、調理ボランティア、数えきれ

ない人々の間断ない協力があって、のべ数万食を越える炊き出しが行われ、仮設住宅などに移る人が増え、自治組織の判断で中止した３月末まで活動を維持することができた。

１１月１８日、堺市教育文化センターにおいて、炊き出しにのべ４００人の組合員を送っていただいた市職労が主催して、自治組織の食事担当だったチェロ奏者でもある安田さんを招いての友情オーケストラコンサートも開かれた。

この炊き出しを通じ、多くの人々と友情と信頼の出会いをさせていただいた。日本人もまだまだ捨てたものではない。　いざというとき本当に頼りがいのある仲間がいる。嬉しいことだ。

（１９９４年１２月　西川栄郎記）

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(① 市・郡・町) 京都市	
	(②区・町・字)	
	(③丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏　名 団体名	京都生活協同組合 ボランティア・センター	
活動の内容 名　称 期　間 場　所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど	・仮設住宅支援活動 ・1995年1月～2000年9月. ・神戸市西区 ・別紙. (サッポロビール エッセイ募集入選作)	

「生きるパワーを分けてもらいながら・・・」

高室　悟子

「いつもありがとう。またきてな。」この一言を聞くたびに一日の疲れは吹き飛んでパワーがよみがえる。

京都から神戸へ、月に一度の「仮設住宅応援バザー」。もうすぐ、十回目を数えようとしている。

阪神大震災から九ヶ月たった頃、私が参加していた生協ボランティアのグループは、ある仮設住宅に出会った。

神戸市内とはいっても山の上にある工業団地の中に建てられたその仮設住宅では、近くに商業施設が少なく、住んでいる人たちは買い物に不自由していた。

「だったらバザーをしよう！」

すぐに話がまとまって私たちは集めていた募金で野菜や豆腐などを買い、現地に向かった。仮設住宅の自治会に話をするとこころよく場所を提供してくれたので『店開き』したところ定価の半額以下という値つけをしたのもよかったのか、大繁盛。一時間ほどで売り切れてしまった。

それから途切れることなく私たちは月に一度の『その日』を、とても楽しみにしている。

最初はバザーだけだったが、イベントをしてはどうかという意見が出たので、ミニコンサートや編物教室をやってみたらとても好評だった。十二月にはクリスマスケーキを持っていったら子どもたちが大喜びした。一人ぐらしのお年寄りから「食事作りが大変」と聞いたので筑前煮やカレーを作って「おかず屋さん」もやった。

顔なじみもでき「次はいつ来るの？」と聞いてもらえるのが、たまらなくうれしい。

そしてなにより、私はここに来るたびに元気になる。励ましに行く？なんてとんでもない。励まされているのは自分の方だ。

敢えて住んでいる人たちの個々の事情を尋ねることはしない。それでもその人なりに、地に足をつけて生きていこうという必死の気持が伝わってくる。

その生きるパワーを分けてもらっているのは私。現実の厳しさに真正面から立ち向かっている人のたくましさに勇気づけられるのは私。

震災の一週間後、ほとんど何も考えずに被災地に飛び込んでから、何も成長してはいない。ただ「新しい星を見つけたか」と問われたら迷うことなく「見つけた」と答えるだろう。

高齢者が置かれている立場、障害者が健常者に言いたかったこと、生活弱者にふりかかる社会の矛盾。それらに対して私が出来ることできるかも知れないこと、震災の前からそれらは存在していたけれど、鈍感な私は気付かなかった。震災後の日々の中でやっと気付くことができた「星」の存在。

まだ、ようやく星を追うスタート地点にたったばかりで自信はない。でも、仮設住宅に行くたびに分けてもらうパワーを自分のエネルギーに換えて、これから星を追いつづけたい。

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開させていただきます	〒　　(事務局記入欄) (① 市・郡・町) 京都府 (②区・町・字) (③丁目・番地等) (建物)
氏名 団体名	京都生協 丹後支部 伊根ミーふるひろば「よもぎ」　よもぎのメンバー 太田垣美代記
活動の内容 (名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど) 中間支援活動	あの日から10年になるのですね。 その日の明け方、こと京都府北部、私たち「よもぎ」のメンバーの住む伊根町が大きくゆれました。がそれがあの大地震であったとは！ 「よもぎ」は京都生協の組合員の集まりです。伊根町は京都北部丹後半島の東に位置する人口3000人余りの小さな町。よもぎは10人程でずっと活動しています。 震災後、京都生協が「がんばれ神戸」をスローガンにさまざまなボランティア活動を展開しました。できることで支援していきたいと思いつつもあまりにも大きな被害と遅々とする復興。何よりも遠くて何がどうなっているのか、そんな思いが私たちの中にあったように思います。そうだ現地でしっかりと現状を見てこよう。その年の夏に神戸の街へ行きました。 これをきっかけに仮設住宅での商品(生協)の販売バザーの手伝い、そして伊根町内でチャリティバザーの開催、売上げを神戸へ届けること。無理せず、できる形でつづけていきたい…と仮設住宅へは、住宅が閉じられる年まで毎年1～2回行くことができました。チャリティバザーは京都生協での支援が一応終了した後も、神戸から京都へ移り住まれた「阪神大震災避難者京都の会」への方へ送らせていただこうと今年で9回目となりました。 少しずつ私たちの暮らしの中からあの日が忘れ去られていく…。けれど、あの夏の日神戸の街を歩いた私たちはあの日のことを忘れず神戸の、いえ被害を受けられた地域の方々が今も精一杯生活しておられるということを忘れないために、これからも小さな町の小さな私たちですが、できることを、できる形でつなげていけたらと思っております。

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(① 市・郡・町) 東京都	
	(②区・町・字)	
	(③丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏　名 団体名	ソニー生命ボランティア有志の会	
活動の内容 名　称 期　間 場　所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど	1995年1月17日 大震災発生時 その日に現地調査に入り 2月18日 重池小学校にて炊出しが活動のスタートです。 その後、西神第7仮設住宅、西ふれあいセンターにて、現在の阪神高齢者・障害者支援ネットワークの黒田裕子さんとの出合で、各公営住宅での皆様の生活を見守りながら活動内容を毎年、夏まつり、温泉バスツアー、クリスマス会を企画実行して、皆様とお逢い出来るのが楽しみとなりました。詳細につきましては、ビデオ、年間活動記録としての壁新聞をお送りいたします ソニー生命ボランティア有志の会 広報担当 齊藤京子 090 3810-6998	

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(① 市・郡・町) 出雲市	
	(②区・町・字)	
	(③丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏名 団体名	出雲・平田・簸川地域社協事務局運営研究協議会 (事務局　出雲市社会福祉協議会)	
活動の内容 (名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど)	◦活動の名称　「被災者への炊きだし」 ◦活動期間　平成7年(1995) 4月22日(土) ◦活動場所　神戸市須磨区鷹取中学校 ◦活動内容　出雲市・平田市・斐川町・佐田町・多伎町・湖陵町・大社町の社協職員で組織する出雲・平田・簸川地域社協事務局運営研究協議会会員29名で避難所となっている須磨区鷹取中学校において出雲の名物である出雲そばの「釜揚げそば」2000食を作り被災された方たちに一食ではあるが温かい夜食を提供し出雲の味を味わっていただいた。	